

平成31年度（2019年度） 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像	本県教育の目標・校訓をふまえ、地域社会の要望に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的知識を高め、自主性・自立性を備え、時代の変化やグローバル化に対応できる地域のリーダーとなる人材を育成する。		
	重点項目	重点目標	達成状況
<p>※平成30年度末に各部・各項目別に成果と課題について検討を加えた。</p>			
<p>教務部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業改善に向けて、学力向上推進委員会を組織し、研究リーダーを中心に校内研修会・校内授業観察・近隣小中学校の授業視察・校外の研修会への参加等、様々な取組を実施してきた。その結果、教員の授業に対する意識が向上し、生徒達が生き生きと授業に取り組む姿が見られた。学力が向上したという成果を出す段階にはまだ時間がかかりそうである。 ○ 教育課程編成においては、昨年度の検討を踏まえ、今後の新教育課程に繋がる編成ができた。また、普段の授業において、ほとんど全ての教員がマナーを重視した指導を行い、その成果が出ている。 ○ 昨年度末に内規を見直し、今年度においても多くの先生から内規に関しての意見を出してもらった。年度反省において検討を加える予定である。 ○ 出張・年休時の振替は100%実施できた。また、チャイムで始まりチャイムで終わるという毎授業時間の確保は全ての教員が実行している。移動教室の際、生徒達は時間に遅れず移動することができ、授業時間を大切にしている意識が育っている。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上・授業力向上にむけての試みを実施してきたが、生徒の学力向上となって現れてくるには、来年度も検討を重ねながら、継続して実施していく必要がある。 ○ 学習意欲を向上させることが本校生には、最も必要なことであろう。生活習慣の改善や家庭教育の充実を抜きにしては、生徒の学習意欲は大きく向上することはない。他の校務分掌と連携して、生徒の学習意欲向上に努めたい。 	<p>生徒の個人的資質の向上に努める。</p>	<p>挨拶の奨励、遅刻・欠席の防止等、基本的生活習慣の徹底やコミュニケーション能力の向上</p> <p>授業・部活・行事など学校教育活動全体を通して生徒の自己肯定感、達成感や学校帰属意識の向上</p>	
<p>進路指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の進路希望に即した進路ガイダンス等の行事・面接・課外指導が実施できた。 ○ 進路決定率は、100%を達成できた。 ○ インターンシップは、37事業所において105人の生徒が参加し、貴重な学びの場となった。 ○ 求人对応や関係部署との連携などが良くできた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員間の連携をより一層高められるようにしたい。 ○ 就職に関して、企業見学や選考のあり方がさらにより良くなるための方策を模索したい。 ○ 進路情報の生徒へのより迅速な通知と周知徹底をはかりたい。 ○ 生徒個々に応じたよりきめ細やかな指導をはかりたい。 	<p>専門的知識の育成に努める。</p>	<p>主体的・対話的で深い学びのある授業を重視した授業改善と、分かる授業の展開による学力の向上</p> <p>商業に関する専門的知識の修得と実践的・体験的な学習の充実</p>	
<p>生徒指導部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶に関しては立哨等で呼びかけているが、呼びかけても返ってこない生徒もいた。 ○ 服装の段階的指導で生徒指導部長注意になった生徒が1名いた。頭髪指導に関しては、学年ごとに程度の差がありやり難い点があった。 ○ 遅刻の段階的指導で生徒指導部長注意になった生徒が2人いた。教室に8：35までに入室し、SHRを受けることができなければ遅刻になるという認識が薄い生徒・職員がいる。 ○ 予定された講話や講習会を実施し、集会等で交通事故に注意することを呼び掛けた。原付バイクや自転車の事故が多かった。交通ルール、マナーに関する苦情が多かった。 ○ 計画的にカウンセリングが実施できた。カウンセリングの内容や今後の方針が詳細に報告された。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別指導における器物破損の取り扱いや、指導上前歴についての捉えを見直す。 ○ カーディガンの色や形、職員トイレの生徒の利用、上履きのかかとふみ対策等の検討が必要ではないか。 ○ スマホ・ケータイ安全教室を合格者説明会だけでなく、全校生徒対象での実施も検討する。各HRでも道徳などの時間を活用して、トラブルのないネット利用を確認する。 	<p>保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。</p>	<p>募集人員の定数確保とキャリア教育充実による進路実現100%</p> <p>出前授業やHPを活用した教育活動の効果的な情報発信</p>	
<p>特別活動部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事に関しては、各行事ごとに設定した目標を達成することができた。 ○ 部活動に関しては、部員数が減少傾向にある。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事の見直しを図るとともに部活動の部員数確保と活性化を目指したい。 	<p>生徒一人ひとりの学力や個性を伸ばす学校づくりに努める。</p>	<p>指導方針に関する職員全員の共通理解・実践（同じベクトル）、モチベーションの向上、風通しの良い職場</p> <p>組織マネジメントを推進し、学年会、教科会、運営委員会、職員会議での活発な意見交換による学校経営・業務の改善</p>	
<p>環境整備部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教室のワックスがけやモップ交換は、事務、担任と連携しスムーズに実施できた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ごみの分別の徹底や中庭にごみやガムなどを捨てないように指導していきたい。 ○ 各トイレの洋式化を求めていきたい。 	<p>安心・安全な学校づくりに努める。</p>	<p>いじめ・体罰・災害等の防止や迅速な対応</p> <p>HR、授業、二者面談や三者面談を活用しての生徒一人ひとりに対する丁寧な理解</p>	
<p>図書部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 図書、オリエンテーション、蔵書点検、環境整備、リクエストボックスの設置等を実施した。 ○ 第42回生徒図書委員中央研修会に開催校として参加した。その際図書委員の生徒が献身的に与えられた仕事に従事した。 ○ 図書室を授業で使用する機会が増えた。また図書室に足を運ぶ生徒も若干であるが増えた。 ○ 新刊本をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行った。 ○ 生徒・教職員に対して、購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付け購入した。 ○ 生徒発行の「図書室だより」を年間3回発行した。 ○ 図書室内装飾品の作成を通し、図書委員会活動を活性化した。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動・読書活動として図書室利用が徐々に増えたが更に主体的・意欲的な学習活動・読書活動が充実するような工夫を図る。 ○ 図書委員会をさらに有効に活用し、生徒自身の主体的な取り組みを促すよう指導する。 ○ 夏休み中に実施予定の県西地区生徒図書委員研修会の建設的な運営に図書部をあげて徹する。 			
<p>渉外部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年はPTA総会出席率が42%であったが、今年は47.5%で総会出席者が増えた。 ○ 例年と同じように保護者の協力を得て、広報誌「鬼怒」を発行することができた。 ○ 昨年は参加者が少なくPTA研修旅行が中止になったが、31名の保護者の参加のもと充実した研修旅行を実施することができた。 ○ スクールバスの運行において、安心・安全かつ円滑な運行を実施することができた。 ○ さわやかマナーアップ、鬼朋等の学校行事において保護者の参加・協力を得ることができた。 <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ PTA総会の出席率を50%以上の出席率を目指したい。 ○ 学校とPTA会員との情報交換を密に行い、共通理解を図り、さらに協力体制を確立する。 ○ スクールバスの継続・安心安全な運行に尽力する。 ○ 県西地区高等学校PTA連合会事務局として円滑な運営体制を築く。 			
<p>保健厚生部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保健室運営については、来室生徒の状態を把握し、処置等、十分に対応することができた。 ○ 各種検診は効率的に全生徒が実施できた。 ○ 性教育講話は生徒参加型（アクティブラーニング）の組立てにより、分かりやすい内容であった。 ○ 防災避難訓練が滞りなく実施できた。また、ストーブ講習会を実施し、防火安全指導が行なえた。 ○ 放射線測定（毎月）・水質検査・室内環境検査等、昨年度より箇所を増やして実施することができた。 ○ AEDを1台増設した。（本館玄関） <p>【次年度への課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 養護教諭が不在のときの保健室利用の確立。 ○ 購買での購入率が高くなってきている。実績を鑑みて内容、販売量等、業者と協議したい。 ○ 防災避難訓練において、生徒の危機感が希薄である。実施内容について検討したい。 ○ 本館棟の3階or4階に担架を1台設置したい。 			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科	国語	継続的な理解力や表現力・基礎的な知識等の習得を重視した学習体制を敷く。	授業内容の理解度をノートや課題集の点検を用いて評価する。		
			長期休業中においても自主的に国語力を伸長する機会を設ける。		
		場に応じた適切な表現の体験を通して、自己を見つめようとする意欲の向上を図る。	スピーチや語り合う機会を設けて、自分の考えを創造する機会を設ける。		
			俳句や短歌の創作等、書く行為によって、自分の心と向き合う機会を設ける。		
		漢字検定を積極的に受検させ、将来の進路に活かす。	課外や課題プリント配布などにより、効率的な学習のサポートを行う。		
	社会	時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。	視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。		
			発問を工夫し対話型の授業展開を心がけ、生徒への授業の参加を促す。		
		教科の基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の習得に努める。		
	数学	教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	多くの例題を通し、基礎基本及び発展的学習において体験的に理解できるように工夫する。		
			課題や学習ノート提出により、理解不足の生徒への対応を迅速に行う。		
			各定期考査で、基本的な内容の充実に加え、発展的な事象も取り入れ、60%以上の習熟を目指す。		
	理科	基礎的な学力の向上を図る。	生徒とのコミュニケーションを重視した授業を行い、必要に応じて課外等のサポートを実施する。		
科学に対する興味・関心を高め、科学的思考力を身につける。		日常生活にあふれる理科現象や身近な物質を取りあげ、科学全般に対して関心を持たせる授業展開に努める。			
物理実験室・化学実験室の整備と授業での活用を高める。		計画的に実験室の備品等の整備を進め、教室内の授業以外に実験室や屋外を利用しての実験・実習の授業を取り入れる。			
体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実に図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。			
	できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率80%以上を目指す。			
	体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。			
	よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。			
保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。			
英語	基礎学力の向上に努める。	單元ごとに確認テスト・小テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力強化を目指す。			
		課題や学習ノート提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。			
	資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外等を実施する。			
	実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	A L T との T T などを活用し、コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング能力を高める。			
ペアワーク・グループワーク等を実施し、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。					
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を取り入れ、具体的でわかりやすい授業を展開する。			
		プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。			
		実習を通して、強い精神力や協調性、自主・自立の精神を育成する。			
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。			
商業	学力・指導力の向上を図る。	学力・指導力向上のために日々の授業を大切にし、学習意欲の喚起と検定試験等の合格率を高める。			
		科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして授業の指導力向上に努める。			
	商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解を深めるために体験入学や出前授業を実施する。			
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務	教員の指導力および生徒の学力向上を図る。	授業の工夫改善をし、主体的・対話的で自ら考え、学ぶことによる分かる授業を行う。 教員の指導力向上のために、授業の相互参観期間を設け、校内外研修の機会を活用する。		
	教育課程の編成に努める。	専門分野の知識やビジネス活動体験を通し、社会の要請に応えられる人材の育成に繋がる教育課程を編成する。		
	学習意欲の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	成績不振者に対する日頃からのきめ細やかな指導と補習や課外を計画的に行う。		
	内規の検討を行う。	本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。		
	授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業を原則振り替えとし、週当たりの自習時間を2時間以内とする。		
	情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を適正に管理する。		
	HPの適正な運営と教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成とそれに沿ったコンテンツ委員会の活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がける。		
	道徳及び道徳プラスでの協働的学びを通し、課題の発見及び解決策を導く力を身に付けさせる。	生徒が自己有用感・達成感を味わえるような学習内容を展開する。		
	生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導において、挨拶がかえってくるまで呼びかけていく。	
服装・頭髪等について校則を守らせる		登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。		
遅刻者数を大幅に減らす		8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。遅刻カードを活用して段階的な指導を行い、遅刻の防止に努める。		
交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ		校外立哨指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。		
問題行動を未然に防ぐ		全職員による立哨指導および校内巡回で昼休みの生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。		
教育相談活動の充実		教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実を図る。		
校務分掌 特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。		
	部活動加入率50%を目標とし、年間を通してのその維持に努める。	各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。 部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。		
	体育的行事、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	委員会の生徒を中心とした活動を活発化させることで、学校行事の充実を図る。		
	進路について理解を深め、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	年次に応じた進路ガイダンスを実施し、進路意識の高揚を図る。 インターンシップや会社見学、各学校のオープンキャンパスへの積極的な参加を呼びかけ、入社・入学後のミスマッチが起こらないように努める。 「進路の手引き」を発行し、希望進路の実現に活用させる。		
進路に関する情報提供を充実する。	大学・短大・専門学校、企業、ハローワーク等と連絡を密にし、情報収集に努め、生徒に的確な情報を提供する。			
進路指導室及び進路資料室の効果的な活用を目指す。	生徒・教員・保護者などが気軽に足を運び、資料を閲覧したり相談できる、開かれた進路室の雰囲気作りに努める。			
環境整備	清潔な環境を目指す姿勢を育てる。	教室のワックス塗布やモップの交換を通して、生徒の美化意識の向上に努める。 効率よく環境整備をするためのアイデアを出し合い、創意工夫の能力の育成に努める。 清掃道具を速やかに充実させ、生徒が意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。		
	環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	より清潔できれいな学校となるための中・長期的な計画を、生徒ともに模索する。		
	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。 諸検診の効果的な実施に努める。 専門家による性教育を実施する。		
	学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。		
保健厚生	学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。 水質検査および室内環境検査等を実施する。		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
校務分掌	図書	生徒の読書センターや情報センターとして図書室環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援したり、情報収集・選択・活用能力を育成する。	わかりやすい蔵書の配置・親しみやすく内容が充実した装飾にも努め、図書室を利用しやすい環境に努める。		
			図書館資料を整理し、蔵書のデータベース化を図り、貸出し返却手続等を迅速に行えるよう努める。		
		読書指導と読書の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。		
			新刊本をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行う。		
			生徒・教職員に対して、購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付ける。		
		生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して新着図書案内を行い、読書に対する関心を高める。			
	図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員活動の主体性を図る。			
渉外	PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。			
		学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。			
		会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。			
		PTA支部研修会を実施し、保護者・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。			
	鬼朋同窓会の組織強化に努める。	同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、同窓生の連帯感を深める。			
	スクールバスの円滑な運行をはかる。	スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。			
県西地区高等学校PTA連合会事務局として円滑な運営体制を築く。	県西地区高等学校PTA連合会事務局として校内での協力体制を築き、円滑に運営できるようにする。				
学年	一学年	挨拶の励行と礼節をわきまえた行動をする。	コミュニケーションの入口である挨拶を積極的に行うと同時に、適切な言葉遣い等を使えるようにする。		
		欠席・遅刻・早退を増やさず、時間厳守の意識をもって生活する。	まず、休まず遅刻せずに登校をさせ、学校生活においても、常に時間に注意を払い、移動教室等の授業において、ゆとりのある行動を心がける。		
		鬼怒商業の生徒である自覚と責任をもち、規範意識を高める。	本校のルールをしっかりと理解し、校内外において、地域の方々から信頼される服装及び頭髪を維持し、スマートフォン使用に関するマナー指導も徹底し、規範意識の向上に努める。		
		日頃の授業は落ち着いた態度で受け、学校行事には積極的に参加をする。	適切な態度で授業を受け、基礎学力の定着を図ると共に、学校行事や資格取得には積極的に取り組む。		
		卒業後の進路を早い段階から意識をさせ、計画的な自己実現を促す。	適切な時期に適切な内容で進路ガイダンスを実施することで、将来を見据えた計画性のある学習活動ができる環境を整える。		
	二学年	挨拶や他人を思いやる気持ちを持って職員と生徒、生徒同士のコミュニケーションを実践する。	最も早く、かつ簡単にできるコミュニケーションの手段として挨拶を励行する。さらに相手の立場に立ったコミュニケーションを実践する。		
		集団生活の中で時間や約束を守ることの大切さを学ぶ。	時間や約束を守るということは、社会人としての最低限度の必須項目である。その必須項目を実践させることによって、誰からも信頼される人物を育成する。		
		ルールやマナーの意義を考え行動する。	集団生活の中ではなぜルールやマナーがあるのか、その意味を理解して行動させる。他人に迷惑をかけない。		
		専門高校の特色を生かした授業の実践	普通科では学ぶことのできない専門科目の特徴であるスモールステップを積み重ねる学習を実践し、結果を残すことによって生徒に自信を持たせる。		
		生徒が自分の適性を把握し、その適性に合った進路が実現できるようサポートする。	自分の適性を理解し、その上で卒業後の進路が自己実現できるよう適切な進路ガイダンスや、進路指導計画を実践する。		
	三学年	社会人となることを意識したマナーの定着とコミュニケーション能力の向上をはかる。	鬼怒商の最高学年としてのプライドを意識し、挨拶・服装・言葉遣い等模範生となるような指導をする。これまで通り家庭との連絡を密にし、生徒指導における小さなミスを見逃さず、学年一丸となって指導を行う。		
		キャリア教育の集大成として、自分の意志で進路を決定し、進路決定率100%を実現させる。	これまでの進路ガイダンス・面談等を通じて得た自己の適性に合う進路を選択し、決定に導くための進路関係の行事を毎月実施する。		
		授業環境の向上と生徒全員の卒業を実現させる。	高校生活が充実して終わるためには、残り少ない授業に「チャイムで始まりチャイムで終わる」ことを徹底させ臨ませる。		
		商業科の生徒が、最後まで各種検定試験に臨む意識を盛り上げる。	進路決定で満足せず卒業間際まで各自が目標とする各種検定試験に臨み、合格率80%を実現する。		
		情報ビジネス科の特徴を活かした高度資格取得の目標を達成させる。	全商1級3種目合格者20名、および高度資格（日商簿記2級、ITサポート、全商英語1級）各3名の合格		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分